

先月までの為替相場のレビューと、  
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2014/01/06

## 米QEの縮小ペースに関心集まる

通貨ペア	基調		ページ数
<a href="#">ドル/円</a>	➔	日米金利差拡大期待が追い風 予想レンジ: 102.500 ~ 108.000 円	2 - 3
<a href="#">カナダ/円</a>	➔	リスク・オンの波は続くか？ 予想レンジ: 96.000 ~ 101.000 円	4 - 5

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



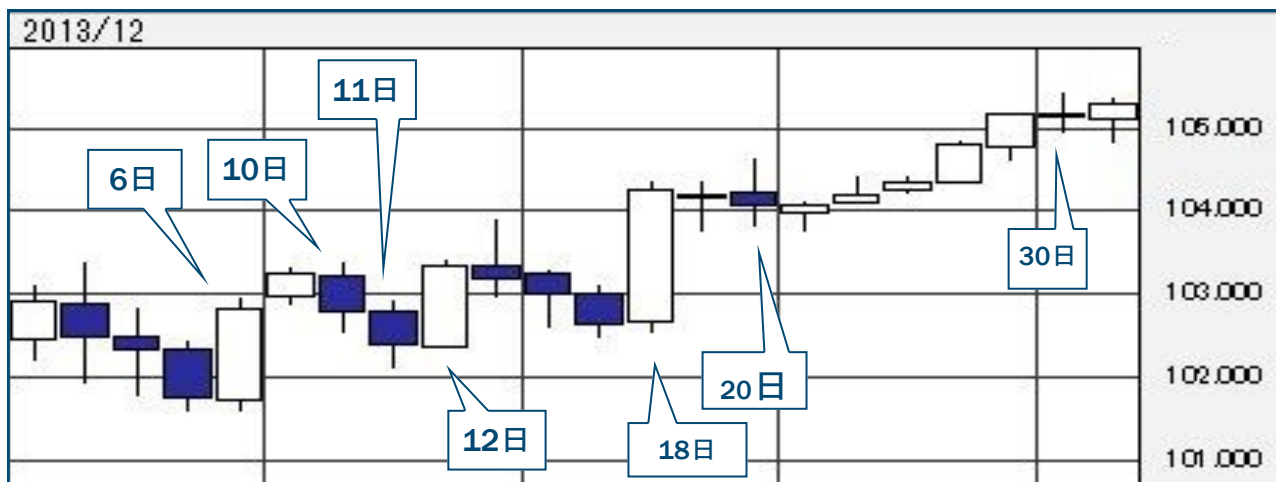
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## USD / JPY

## ドル/円 12月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	102.485円	105.411円	101.623円	105.313円



6日	公的年金改革を議論する政府の有識者会議の伊藤座長が「年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)は国内債52%への削減に今すぐ着手を」などと発言したことを受けて円売りが優勢となり、ドル/円は102円台に乗せを達成。22時30分に発表された米11月雇用統計は失業率が7.0%、非農業部門雇用者数は20.3万人増(市場予想:7.2%、18.5万人増)となったことを受け、ドル/円は急騰した。
10日	「年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)は海外インフラファンドへの投資に踏み出す」「GPIFはインフラ投資においてノウハウを持った海外公的年金と提携する」との報道を受けてドル/円は上昇。ただ、103.400円目前で上値を押さえられ、その後は冴えない欧米株等を眺めながら失速した。
11日	アジア市場中に米超党派委員会によって2年間の暫定予算に関して合意に至り、1月の政府機関閉鎖が回避される見通しとなったことを受け、年内、あるいは来年1月の量的緩和縮小が開始しやすくなったとの見方から、NYダウ平均が下落。これに連れて、ドル/円は102.145円まで下落した。
12日	ナイトセッションの日経平均先物が上昇する中で全般的に円売りが強まり、ドル/円はジリ高。22時30分に発表された米新規失業保険申請件数は36.8万件(市場予想:32.0万件)、米11月小売売上高は前月比+0.7%(同:+0.6%)とマチマチの結果となった。ただ、市場では米小売売上高の結果をより重視し、ドル/円は上昇。103円台を回復した。
18日	FOMC声明発表前に円買いが全般的に強まると、ドル/円は102.609円まで失速。しかし、FOMC声明が発表され、不動産担保証券(MBS)の買入を月400億ドルから350億ドルへ、国債買入を月450億ドルから月400億ドルへ減少させることを発表すると、ドル高が急激に進行。さらに、同声明にてフォワードガイダンスが「失業率が6.5%を下回ってからかなりの時間が経過しても、特にインフレ見通しが2.0%を下回り続けている場合、FF金利の誘導目標を0.0%から0.25%の範囲で維持する公算」と修正されたことを受けて、FOMC声明で量的緩和縮小が発表されたことで急落したNYダウ平均が反発すると、ドル/円は一段と円安・ドル高が進行。2008年10月以来の高値となる104.350円を付けた。
20日	3連休前の5・10日とあって朝から買いが先行。オプションバリアが観測されていた104.50円を前に一旦は伸び悩んだものの、日経平均が引け間際にプラス圏を回復した事が上値試しのきっかけとなり、オプションのカットオフタイム(15時)を通過すると上昇した。なお、日銀は金融政策決定会合で市場予想通り政策を据え置き、市場は特に反応を見せなかった。
30日	年末で市場参加者が減少し、相場が薄い中でまとまった規模のドル買いが入り、105.411円と年初来高値を更新した。

## USD / JPY

## 今月のポイント

12月のドル/円相場は101.623～105.411円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約2.8%もの上昇(ドル高・円安)となった。

月初からドル/円は押し目を挟みつつもジリジリと上昇した。米11月雇用統計が良好な結果だったことを受け、12月17-18日に開催される米連邦公開市場委員会(FOMC)での量的緩和(QE)縮小開始観測が高まったことがドル買い要因となった。実際にFOMCでQE縮小が決定されると、ドル/円は一段高。年末の薄い相場の中でも、日米の金利差拡大を睨んでドル高・円安が進み、ドル/円は105円台乗せを達成した。

今年に入っても、引き続き日米の金利差拡大を期待してのドル高・円安基調は継続するものと考えられる。12月に始まった米量的緩和(QE)の縮小について、米連邦準備制度理事会(FRB)の面々は「タイトニング(引き締め)ではない」ことを強調しているが、今後のQE縮小ペースについては加速を検討する必要性があることを主張する米連邦公開市場委員会(FOMC)メンバーもいる。月初からの米経済指標が良好であれば、QE縮小ペース加速を睨んだドル買い、さらに「出口戦略を睨んだ米長期金利上昇」などがドル/円を押し上げる要因となるだろう。ただし、こうした期待で昨年末にかなりドル高・円安も進んでおり、利食い売りなども、随時出てくるものと考えられる。

なお、テクニカル面でみると、2007年6月高値124.120円から2011年10月の安値75.320円までの下げに対する61.8%戻しの水準である105.478円付近がまずは上値抵抗となってくると見る。ここを超えると一段と上昇余地が拡大すると考えられる。(石川)

(予想レンジ: 102.500～108.000円)

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

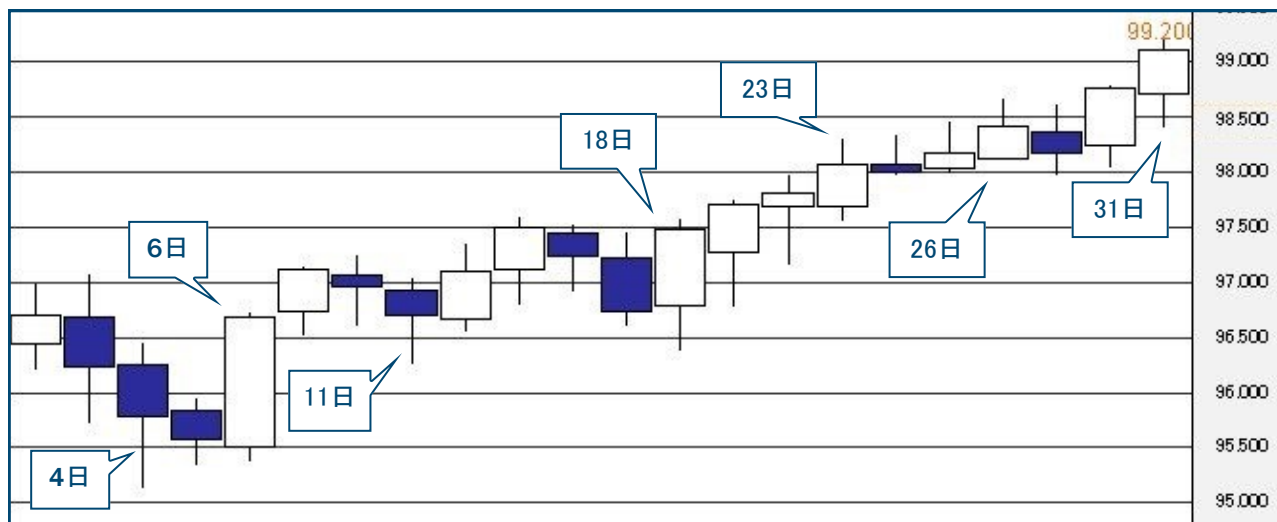
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
1/2(木)	12月米ISM製造業景況指数		12月米鉱工業生産
1/6(月)	12月米ISM非製造業景況指数		1月米シガン大消費者信頼感指数・速報値
1/7(火)	11月米貿易収支	1/22(金)	日銀金融政策決定会合(21日～発表)
1/8(水)	12月米ADP全国雇用者数	1/27(月)	12月日本通関ベース貿易収支
	FOMC議事録(12月17・18日)		日銀金融政策決定会合議事要旨(12月19・20日分)
1/10(金)	12月米雇用統計		12月米新築住宅販売件数
1/14(火)	11月日本経常収支・貿易収支	1/28(火)	12月米耐久財受注
	12月米小売売上高		1月米消費者信頼感指数
1/15(水)	米地区連銀経済報告(ページブック)	1/29(水)	米FOMC声明
1/16(木)	11月日本機械受注	1/30(木)	第4四半期米GDP・速報値
	12月米消費者物価指数	1/31(金)	12月日本消費者物価指数
	1月米フィラデルフィア連銀景況指数		12月米シカゴ購買部協会景気指数
1/17(金)	12月米住宅着工件数		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## CAD/JPY

## カナダ/円 12月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	96.455円	99.200円	95.159円	99.121円



4日	カナダ中銀(BOC)は、政策金利を予想通り1.00%に据え置くとともに、「インフレの下振れリスクは拡大しているとみられる」などとする声明を発表。前回の会合で削除した将来の利上げに関する文言の復活もなく、低インフレへの警戒感をにじませた。ハト派色の強い声明を受けてカナダドルが急落すると95.159円の安値を付けた。
6日	加11月雇用時計は、失業率が6.9%と予想通りながらも、雇用ネット変化が2.16万人増と予想(1.20万人増)を上回った。これを受けてカナダドル買いが強まった上に、米11月雇用統計の好結果を受けてドル/円が上昇した事につれ高したため、96円台へ急騰した。
11日	アジア、欧州、NYと各市場でポジション調整的な株売りの流れが続き、リスク選好の姿勢が後退したため96.20円台まで軟化。対ユーロで資源国通貨が全般的に売られた事(ユーロ圏のリパトリと見られる)もカナダ/円の重石となった。
18日	米連邦公開市場委員会(FOMC)が、量的緩和の規模を100億ドル減額すると発表すると、ドル高・カナダドル安に振れた影響から一時下落したものの、ドル/円の上昇が支えとなり急速に切り返した。その後、FOMC声明で低金利を継続する方針が示された事を好感してNYダウ平均が大幅に上昇すると、97.50円台まで上昇した。
20日	加11月消費者物価指数が前月比±0.0%、前年比+0.9%となり、予想(+0.1%、+1.0%)を下回った。BOCの低インフレ警戒の姿勢と合致する結果にカナダドル売りが強まると97.10円台まで下落した。しかし、売り一巡後は、NYダウ平均が史上最高値を更新して上昇した事や、原油価格が99ドル台へ上伸した動きを眺めて97.90円台まで反発した。
23日	欧州株の堅調推移を背景に98円台に上伸。さらに、加10月国内総生産(GDP)が前月比+0.3%と予想(+0.2%)を上回ると98.30円台まで上値を伸ばした。
26日	日経新聞朝刊1面で「安倍首相、雇用や農業、医療分野を柱とした新たな成長戦略を来年6月をめどにまとめる方針」と報じられた事などから株高・円安が進行。カナダ/円は日経平均株価の大幅上昇に支えられて98.60円台まで上昇した。
31日	上海株の上昇などを眺めてアジア市場の時間帯から堅調に推移。さらにNYダウ平均が引け間際に16588.25ドルの史上最高値を記録すると、年内最終取引のNY市場終了間際という薄商いの中で99.200円の高値を示現した。

※巻末の特記事項を必ずお読みください。

## CAD/JPY

## 今月のポイント

12月のカナダ/円相場は95.159円～99.200円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約2.7%の上昇(カナダドル高・円安)となった。上旬には、カナダ中銀(BOC)が、低インフレに言及するハト派的な声明を発表した事を受けて95円台まで下落する場面も見られたが、米国の11月雇用統計や連邦公開市場委員会(FOMC)での量的緩和縮小などを経てリスク・オンのムードが広がると反発。なお、下旬にかけては、NYダウ平均が31日に史上最高値を記録、日経平均株価も30日に6年ぶり高値を付けるなど、世界的に株価が上昇したほか、カナダドルとの連動性が高いNY原油価格も27日に2カ月ぶりに100ドル台を回復。こうした動きの中で、カナダ/円は31日に約7カ月ぶり高値となる99.200円まで上値を伸ばした。

2014年1月も、カナダ/円相場にとって最大の焦点はリスク・オンが継続するか否かであろう。世界的な株高基調を支えているのは、米国の景気回復期待であり、10日の12月米雇用統計などを通じてそうした期待が一段と高まれば、カナダ/円は100円台を回復する場面もありそうだ。昨年5月に付けた101.032円が当面の上値目標となろう。仮に反落する事になった場合は、昨年12までの上値抵抗であった97円台半ばでサポートされるか注目となるが、ここを割り込んでしまうと96.00円付近まで下値余地が拡大する事になる。

カナダ国内の注目ポイントは、22日のBOC政策金利発表と24日の12月消費者物価指数であろう。BOCは、昨年12月に発表した声明で、物価の上昇ペースが鈍化している点に警戒感を示しており、これが、利上げ期待の後退につながった。1月もBOC声明と物価動向がカナダドルの値動きに影響を与える可能性が高いため、注目しておきたい。(神田)

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
1/8(水)	12月中国貿易収支	1/22(水)	加中銀政策金利発表
	12月米ADP全国雇用者数	1/23(木)	11月加小売売上高
	12月加Ivey購買部協会指数	1/24(金)	12月加消費者物価指数
	FOMC議事録(12月17・18日)	1/27(月)	12月日本通関ベース貿易収支
1/10(金)	12月加雇用統計	1/29(水)	米FOMC政策金利発表
	12月米雇用統計	1/30(木)	第4四半期米GDP・速報値
1/14(火)	11月日本経常収支・貿易収支	1/31(金)	12月日本全国消費者物価指数
	12月米小売売上高		11月加GDP
未定	第4四半期中国GDP		
未定	12月中国鉱工業生産		
1/22(水)	日銀金融政策決定会合(21日～発表)		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。